

全鉄連情報

平成21年 6月12日刊

〔第73号〕

目次	P 1 加盟団体報告	P 3 企業消息
	P 1～2 鉄鋼課連絡会報告	P 3 会員入退会
	P 2 常任理事会報告	P 4 業況アンケート結果
	P 2～3 鉄流懇報告	

全国鉄鋼販売業連合会広報委員会主管

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10鉄鋼会館6F ☎03-3808-2350 FAX03-3808-2358

加盟団体報告

(平成21年 4月1日
～21年 5月31日)

202名が受講、新日鉄君津見学

△東京鉄鋼販売業連合会 (出店要蔵会長)

4月8日(水)9日(木)の2日間にわたり第47回鉄鋼新人・中堅社員教養講座が開催された。初日の8日は浦安鉄鋼会館で木内勝(新日本製鉄執行役員)富樫和久(住友商事常務執行役員)村上京子(東洋鋼鉄代表取締役社長)宮本慎(プレゼントコミッティ代表)夏川立也(コミュニケーションプロデューサー)以上5氏の講義を受けた。翌9日は新日本製鉄君津製鉄所を見学。所内の展示ホールでビデオなどを使っての製鉄所の概要説明があった後、5班に分かれてバスで所内を見学した。車中から第4高炉を見学。途中、トピードカーやスラブなどの半製品を運ぶ貨車に出くわした。所内にコンビニや郵便局、信号などがあることに驚いた様子で、その規模に受講者は目を奪われていた。バスを降りての見学は第3連続铸造設備、厚板工場、第4溶融亜鉛メッキ工場の3カ所。受講者は鋼材製品ができるまでの工程を興味深く見学していた。なお、今回の受講者は202名だった。

新会長に出店要蔵氏就任

5月12日(火)茅場町「鉄鋼会館」において21年度定時総会を開催、110名が出席した。その席上、役員改選が行われ、西村会長が退任し、出店要蔵氏(出店鉄鋼)が新会長に就任した。また、副会長に梶哲夫氏(梶哲商店)が新任した。総会冒頭、西村会長は「昨年9月のリーマンショックを契機とした100年に一度といわれる不況に陥っている。最近では中国の需要が回復するなど底を抜け出す兆候も見えてきた。会員のみなさんにはこの難局において本業を大事にする姿勢で頑張ってもらいたい」と挨拶していた。出店新会長は「とてつもない時の会長就任である。だが、50年以上の歴史を刻む東鉄連の会長に就任したことは名誉なことだと感じている。このような大変な時期に、少しでも東鉄連のお役に立てば幸いである」と就任の挨拶を述べていた。

須藤清昭氏が新理事長に

△三重県鉄鋼特約店組合 (須藤清昭理事長)

4月23日(木)四日市市内のホテルで定時総会を開催。その席上、新理事長に須藤清昭氏(須藤)を選任した。須藤新理事長は「厳しい経済環境のなか、40年近い歴史を持つ組合に少しでもお役に立ちたい。当組合は県下の同業者が集まる組織である。与信情報を含め助け合える情報交換の場としたい。上部団体である全国鉄鋼販売業連合会に対しても、みなさんと協議して情報を発信していきたい」と就任の挨拶を述べていた。21年度の限定措置として会費を徴収しないことになった。

底値の確認と需要喚起が大事

△東北鉄鋼販売業連合会 (齋藤芳郎会長)

4月24日(金)仙台市内「パレスへいあん」で21年度定時総会を開催。齋藤会長は「鉄スクラップの値戻りや東鉄の異形棒鋼値上げで底値感が見え始め、底値が確認されれば市場は活性化する。需要喚起が大事である長い間、地域に根を張り、顧客と信頼関係を築いている自負を持って仕事に当たるべきだ。市場を攪乱する動きは戒めるべきだ」と挨拶で述べていた。当日は全鉄連林会長が出席し、最近の市況動向や市場の問題点について所見を披露していた。

活発な会活動を、と丸岡新会長

△愛知鉄鋼販売業連合会 (丸岡勢一会長)

5月13日(水)名古屋市内のホテルで21年度定時総会を開催。会員40社が出席した。このたび会長に就任した丸岡勢一氏(岡谷スチール)は「大変厳しい時期に初の商社系からの会長就任となった。歴史のある愛鉄連の活動を全国にアピールし、若い力をさらに吸収して活発な会活動を展開していきたい」と抱負を述べていた。退任した林前会長は「会員各社のご尽力により、10年間の会長職を大過なく務められた。今後も幹事として会活動に協力していきたい」と挨拶をした。

鈴木覺氏、2度目の会長就任

△静岡県鉄鋼販売業連合会 (鈴木覺会長)

5月15日(金)静岡市内「静岡グランドホテル中嶋屋」で総会を開催し、新会長に鈴木覺氏(鈴覺)を選出。鈴木氏は2度目(前は平成14年～18年)の会長就任となる。鈴木会長は「厳しい環境であることを強く認識している。その中で会を盛り上げるには東部・中部・西部の各支部の活性化と会員の参画意識の高揚が大切。みなさんの協力を改めてお願いしたい」と呼び掛けた。

関連会議報告

鉄鋼課連絡会

5月20日(火)

会場 鉄鋼会館806号室

出席 葛岡・芳澤(経済省)林・丸岡(愛知)山岸・佐藤(東京)阪上(大阪)今井(北海道)齋藤(東北)井上(神奈川)今井(新潟)南(石川)

*会議に先立ち、経済産業省新任担当官として着任した葛岡制紀氏と愛鉄連会長に就任した丸岡勢一氏、両氏の紹介があった。

●全鉄連調べによる3地区12品種18サイズの平均市況は90,900円前月比-2,900円、前年同月比-31,800円。

●経済産業省から「経済危機対策関係経費の概要」とする資料が提出され、説明があった。雇用、金融、低炭素革命、健康長寿・子育て、底力発揮・21世紀型インフラ整備、地域活性化、安全・安心確保など、地方公共団体への配慮、以上8項目からなり総額で1兆4千6百98億7千万円とかつてない大型の予算規模となっている。

常任理事会

●鉄流懇が3ヶ月1回の開催になったことに伴い、年間の会議運営を次の通りとした。鉄流懇(5月、8月、11月、2月)鉄鋼課ヒアリング(6月、9月、12月、3月で従来通り)普電工懇談会(新たに電炉メーカーとの懇談会を設営。7月、10月)。なお、常任理事会は鉄流懇と普電工懇談会に併せて開催する。

●副会長に出店要蔵氏、丸岡勢一氏の選任を内定。西村副会長は21年度定時総会をもって退任。よって、副会長3名制となる。

●6月5日(金)岐阜総会の運営詳細について取り決めた。

●事務局より提出された20年度収支報告、21年度予算案についての説明と、4月22日(水)行われた会計監査の報告があり、これを了承した。

●茨城鉄友会の脱会を認めた。

●全鉄連は平成22年度に創立40周年を迎える。この記念事業の実行を取り決め、定時総会と併せて東京での開催を決定。

第409回鉄流懇概要

在庫減少するも市場は停滞感払拭できず

●東鉄連からの概況報告(山岸・佐藤)

△鉄筋…メーカーはスクラップ価格が上昇すれば販価を上げていくと思われる。引き合いは低調。

△平鋼…5月は稼働日数が減少した分だけ売上が減るだろう。大幅な下げはないがジワジワと下げが続いている。在庫は大幅減だが荷線りに支障はない。

△一般形鋼…4月部会調査では前月比で入庫7%減、出庫4%減、在庫5%減。H形鋼とコラムの出庫が減少し一般形鋼は増加している。

△H形鋼…4月末ときわ会在庫は約21万トン、前月比4.7%増。通常であれば過少と思えるが、商売がへたっているので気にならない。ここで少しでも需要が出てくれれば大変だ、という在庫レベルである。

△一般形鋼…在庫は減少している。東名阪で大きな値差はなく、そろそろ底打ちか。

△C形鋼…先安、在庫調整のなか苦しい商売を強いられている。コイル価格の動向を見極めないうちに軽量メーカーが動いた。これが価格安定を阻害している。

△広幅製品…物件が少ない。販売は前年実績の半分ほどに落ち込んでいる。

△コラム…H形鋼との値差が大きく、設計段階からコラムを使わない仕様となっている。

△薄板概況…悪いながらも止まってきたな、という感じだ。4月のコイルセンター出荷は3月を多少上回った。在庫は減少している。

△冷延…産業装置機器は部品が動かないと需要として出てこないの、しばらくは現状の停滞感が続くだろう。

△表面処理…市中在庫は減少しているが、歯抜けが出るほどではない。在庫は減少傾向であるが、まだ2.2カ月強ある。安値の売り込みがなくなった。

△厚板耳付き・切板母材…部会調査による4月販売量は前月比21%減、在庫量は微減。販売は昨年7月に比べ3分の1になっている。在庫は現状の販売量からして6ヶ月分近くある。全体的に需要低迷で、特に産業機械、建設機械の落ち込みが酷い。

△中板・ホットコイル…薄板と状況が良く似ている。やっと在庫調整の目処が付き始めた。価格的にも今回の下げは3月が大底だったようだ。

△厚板定尺…一番状況が悪い。メーカー間で乖離した価格状況にあって、在庫を持ちすぎた流通はその調整に四苦八苦しているという悪循環に陥っている。

△編板…切板はスポット中心で、受注残1日~1日半のその日暮らしの状態が続いている。電炉と高炉の値差はまだ大きい。

△鋼管概況…部会員からの話では、前年比で30~50%の落ち込み、前月比ではほぼ横ばい。これからまだ少し落ち込むと思うが、下げ止まりの傾向となるだろう。

△高炉品…在庫は潤沢で調整が思うように進まない。公共事業関連は6月中旬から入札が始まり、夏以降に出てくるとい段階であろう。

△溶協品…値下げがあったが、これで終わりではなくもう少しの下げがあるだろう。

末端の在庫調整は完了

●OSAからの概況報告(阪上)

販売量を前年比で見ると、条鋼20%、薄板、厚板、鋼管、軽量関連は40%とそれぞれ減少している。市中は底打ち気味で、需要家からの発注は少し回復しているが、全体感としては、大きな回復の潮流にはなっていない。市中末端の在庫調整は完全に終了している。メーカー販価を下回るほど突っ込んでいたものが値を戻している。ファブでは、Mグレードは手すき状態。Hグレードでも夏場の仕事がない。秋口以降の施工にズレが生じているようだ。

月を追って景況悪化

●愛鉄連からの概況報告(丸岡)

薄板が非常に悪い。赤字販売をしても在庫が減らない加工センターの稼働率は50%を切り、毎日が開店休業状態。自動車の落ち込みが激しい。3月より4月が悪く5月が更に悪くなっている。5月の始めに地元ゼネコンから期近の物件で発注があったり、秋口以降の病院関連環境対策などの引き合いはあるが、量が少ない。6~8月に掛けてH、Mグレードファブは手すき状態。新規の物件がなく、名古屋のファブが東京の案件まで手を出している。

売上実績は前年の半分

●東北からの概況報告(齋藤)

3月より4月、4月より5月と月を追って悪くなっている。売上前年比50%減は普通である。ときわ会在庫は過去最低となったが、需要が出なければ底値は感じられない。地場の100トン、150トン位の丁度いい物件が見当たらない。鉄骨単価も下落。取引先でも廃業を検討しているところもある。青森で4億6千万の倒産があり信用不安は増幅されている。

需要総崩れ、信用不安蔓延

●神奈川からの概況報告(井上)

当地区も状況は同じで月を追う毎に悪くなっている。仕事が少ないので価格を下げて受注してきたが、それも限界に近づいている。良い需要分野が全くない。官公庁関連需要は毎月一定量ある。自動車の動向が掴めない。薄板の在庫調整はまだ時間が掛かりそうだ。M、Rグレードファブは仕事がない。これから耐震補強物件が動き出す。与信不安が蔓延しているので気が抜けない。

公共工事にまだ期待できず

●新潟からの概況報告(今井)

月を追って落ちている。公共工事は前倒しで発注されるというが、これもまだ先のことなので期待できない。大手ファブでも夏以降の仕事の手配ができないところが増えている。厚板熔断業者への切板価格交渉が厳しくなっている。コイルセンターでは店売り主体で40%、紐付き主体で50%の減少で、どのコイルセンターも赤字を余儀なくされている。

出ている需要は北陸新幹線関連のみ

●石川からの概況報告(南)

建産機関連の仕事が出てくるまでには、まだ時間が掛かりそうだ。北陸新幹線関連の仕事は富山県でピークになっている。電子部品関連は通常の80%まで回復しているそうだが、それが続くかどうかはわからない。公共工事を受注している大手に下請はまだまだ仕事が足りない中小零細業者が増えている。

危機意識をもった対処を

●林会長(総括)

非常に状況は厳しい。かなり在庫は減っている。メーカーは高炉、電炉で若干事情が異なるが、減産を押し進めていることに変わりはない。懸念されるのは、ここにきて国内価格が国際価格より安くなっていることだ。隣の国が増産していることが気にかかるだろうが、現状のような安い価格で売らなければ赤字になる。政府の補正予算が成立し、状況は好転するかもしれないが、今後の需要動向を正確に見極めていかなければならない。その意味で製販ともに危機意識をもってこの数ヶ月は、危機意識をもって対処していく必要がある。

*この後、商社・メーカーから発言があった。なお、発言内容については別紙資料3-1、3-2を参照。

回復の道筋が見えない

●経済産業省(石川課長)

地域の厳しい状況を聞かせていただいた。需要動向は言うまでもなく厳しい。この2~3月の生産水準が一番低く、現状では前期比多少プラスになるだろう。それで底打ちか、ということだがそれは見方が分かれる。自動車は-60%、建産機-70%と前年比大幅な落ち込みであるが、これ以上は落ちない。では、どの水準までどのくらいのスピードで戻るのか。これはなんとも言えない。専門家でもわからないだろう。日本経済は輸出に大きく影響されているが、現状、輸出が上向く気配はない。今の状況を言ってみれば底は見えたが、回復の道筋は見えていないという段階であろう。5月15日までの自動車販売台数は去年に比べ若干増加している。しかし、こ

れも稼働日数がずれているので、ここはよく見ておく必要がある。林会長から指摘の経済対策については、行政としてできる限りのことはしていく。15兆円の補正予算がまもなく国会を通る。これには考えられるアイデアを盛り込んでいる。それで一定の効果が出ると確信しているが、どうしてもタイムラグが出てしまう。その点を斟酌していただき、現状の需要動向を見定めて、需要の先取りをすることのないようお願いしたい。

需要の足腰は弱く、我慢と辛抱の時が続く

●小野会長

過去10年間でこれほどの大型な経済対策はなかったと思う。いち早い経済対策の執行が望まれる。3月末から基調に変化はない。現状認識については石川課長と同様で、底は見えたが、底打ちとはいえない状況であろう。根拠なき期待感を持って、先行きを楽観視することなく現状を正確に把握し、打つべき手は打っていく所存である。需要の足腰は弱く、我慢と辛抱の時が続くだろう。

会員企業消息(平成21年 4月 1日~21年 5月31日)

〔所在地・代表者変更など〕

- 酒井鋼管(株)(愛知)~代表者に酒井正叔氏が就任。
- (株)スノウチ(東鉄連・京橋)~新代表者に渡部康二氏が就任。
- (株)メタルワン建材(東鉄連・京橋)~新代表者に大西哲也氏が就任。
- (株)アイ・テック新潟支店(新潟)~新支店長に小池茂計氏が就任。
- (株)ワテックス(東鉄連・鋼管)~新代表者に小出照夫氏が就任。
- 大阪鐵材商事(株)(OSA)~新代表者に梁川泰人氏が就任。
- まや鋼業(株)(兵庫)~本社所在地を神戸市西区室谷2-12-2に移転。電話、FAXは従来通り。
- 植木鋼材(株)(栃木)~新代表者に小久保忠氏が就任。

会員入退会(平成21年 4月 1日~21年 5月31日)

〔入会〕

- 明治鋼業(株)栃木営業所・村澤浩之所長
(所属)栃木県鉄友会
(所在地)佐野市町谷町2944-2
☎0283-20-5691
FAX0283-22-8761
- 中央スチール(株)・森田謙吾社長
(所属)岐阜県鋼材販売協同組合
(所在地)岐阜県揖斐郡大野町大字五之里字塚町106
☎0585-32-4401
FAX0585-32-4436

〔退会〕

- 西岡金属(株)広島加工センター・西本産業(株)(広島)
- 阪神鋼材(株)・ニスク販売(株)・(株)ヨシケン(OSA)

(了)

鉄鋼流通問題懇談会 品種別動向について (2009年 5月)

発表者	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
発表項目	メタルワゴン	住友商事	阪和興業(株)	メタルワゴン
1. 需給動向 (景況感)	4月も市況の下落傾向に歯止めかからず、全品種に於いてじりじりと下がっている。一部ガス管以外の品種に特に余刺感はないものの、ユーザー/流通に於ける購買/在庫意欲無く、メーカー出荷、流通出荷共に大幅に低迷している。	3月末の薄板3品在庫は、426万トンと前月比26万トンと2ヵ月連続で大幅に減少した。昨年来の高炉メーカーの大幅減産が漸く功を奏し始めた。自動車関連で在庫調整の進展から若干回復傾向が見られるものの依然活動水準は低位に推移しているが、期末在庫圧縮のための安値販売が終息したこと等から、ほぼ底値は固まった。	鋼板流通調査による3月末厚中板在庫は、551千トンで前月比22千トン(7ヶ月連続)の増加。産建機・建築の需要減の影響を受け、需給は緩和している。	棒鋼 関東地区の三月度の丸棒発注数量(推定)は、18万トン程度と依然水準は低いものの増加傾向にあり、コアラップ価格の上昇と相まって市況の先安感は薄れつつある。 形鋼 市中の在庫調整は進んでいるものの、実需が減少する中、安値が散見され、市況反転までには今暫く時間を要すると思われる。
2. 需要産業動向	自動車向けは、一部メーカーによる生産増の動きがあるものの、部品メーカーや中間流通に於ける在庫整理が未だ途中であり、足下の出荷増には繋がっていない。今後下期に向け、緩やかな一定の回復となる見込み。	3月の自動車生産台数は、前年比50%減の55万台ながらも前月比では+14.7%となった。輸出も前年比64.3%減の23万台ながら前月比では+7.6%であった。4月の国内新車販売台数は、28.6%減の17万台となり9ヶ月連続の減となった。3月の新設住宅着工戸数は、前年比20.7%減の6.7万戸ながらも前月比では+8.1%であった。	3月末造船手持工事は、63,755千GTで、前月比1,179千GT(6ヶ月連続)の減少。同3月の建設機械出荷金額は、1,283億円の前年同月比56.6%の(6ヶ月連続)減少。内訳は内需が37.0%(12ヶ月連続)減少。外需は64.8%(5ヶ月連続)の減少。	3月の新設住宅着工床面積は前年同月比▲22.9%と5ヶ月連続の落ち込みとなった。一方、首都圏では、3月度のマシヨン市場動向において契約率が前月比で16.6%改善の78.3%となり7ヶ月ぶりに好不調の分水れ目とされる70%台にまで回復。これは価格下落やマシヨン販売各社による新規供給抑制が奏功したもので在庫の圧縮と相まって、需給調整は進みつつあると思われる。 輸出 3月の鉄コアラップ輸出量は4ヶ月連続の増加となる89.8万トン(前年同月比+58.3%)となった。仕向先別では、韓国が25.2万トン(同比+2.0%)中国は6ヶ月連続の最多輸出先となる60.9万トン(同比+118.6%)台湾が2.5万トン(同比▲2.9%)輸入 H形鋼に関しては1-3月で前年同期比+56.4%の20,570トンの実績となったが、為替や国内メーカー動向により、4月以降は減少する可能性が高い。
3. 輸出入動向	3月の鋼管貿易は輸入に於いて韓国材のERWが2月比やや増加した。	3月の薄板3品入着量は、前月比+13%の12万トンであった。熟延は+6%、冷延は+8.1%、亜鉛メッキは▲1%であった。 3月末の輸入鋼材岸壁在庫は、前月比+0.4万トンの22.8万トンとであった。	3月輸入通関は、6,171トンで、前月比2,495トンの増加。輸出は334千トンで前年同月比7.3%減と2ヶ月連続の減少。	中国の粗鋼生産は依然順調で、このペースが維持されれば、09年度は5億トン超となる見込み。足下は春先需要のピークに達しつつあるため鋼材在庫は減少しつつあるが、一過性のもと思われ。需給バランスに関しては、マクロでは供給過多が続く見込みで鋼材価格の下落が懸念される。北米については依然として住宅需要回復のメドが立たない中、鋼材市況全般に弱含んでおり、更なる増場下落の可能性もある状況
4. 海外市場動向	ラインパイプ案件などの中止、延期も多く、少ない案件にメーカー・流通が集中し競争激化。又、海外在庫筋も、資金繰り問題や鋼材価格の下落による買い控え状態が継続しており、配管/継手類なども世界的に商談低迷している。一方、原子力発電所案件やその他電力関連PJは堅調である。	悪化の一途を辿ってきた世界経済は、ここに来て米国の住宅関連指標が上向いてきた他、中国における工業生産活動の回復等、一部で好転の兆しが現れ始めている。しかしながら主要国の大半において雇用環境は厳しさを増しており消費に牽引された自立的な景気回復は尚、期し難い状況にある。鉄鋼生産については、中国を除く主要国で依然大幅な減産が続いている。	厚中板の中国国内市況は、旧正月以降じり安傾向が続いていたが、4月末を境に底入れ感がでてきている模様。	中国の粗鋼生産は依然順調で、このペースが維持されれば、09年度は5億トン超となる見込み。足下は春先需要のピークに達しつつあるため鋼材在庫は減少しつつあるが、一過性のもと思われ。需給バランスに関しては、マクロでは供給過多が続く見込みで鋼材価格の下落が懸念される。北米については依然として住宅需要回復のメドが立たない中、鋼材市況全般に弱含んでおり、更なる増場下落の可能性もある状況
5. 11ヶ月クム				

鉄鋼流通問題懇談会 メーカー発言 (2009年5月)

発表者 発表項目	高炉 J F E スチール
1. 需給動向 (景況感)	3月の鉄工業生産指数は、前月比+1.6%と6ヶ月ぶりの上昇に転じた。他方、在庫指数は前月比▲3.3%と3ヶ月連続の減少となるなど、在庫調整の進展と生産回復の兆しが見えるものとなった。 海外においても、景気後退ペースの鈍化を示唆する経済指標が散見されるが、足元の日本経済は依然として厳しい状況にあり、内閣府は09年度の実質経済成長率を▲3.3%に下方修正した。
2. 需要産業動向	建設、製造業ともに低迷した状況が続いている。 〔建築〕3月新設住宅着工戸数6.7万戸 (前年同月比20.7%減) 08年度103.9万戸 (前年比0.3%増) 〔自動車〕4月国内販売27万台 (前年同月比22.6%減) 9ヶ月連続減 08年度999万台 (前年比15.2%増)。 3月完成車輸出23万台 (〃64.3%減) 6ヶ月連続減。 〔産業機械〕2月受注 前年同月比52.7%減。7ヶ月連続減。 3月生産 〃 40.7%減。13ヶ月連続減 08年度 前年比18.8%減。6年ぶり減。 〔造船〕3月新造船受注460万GT (前年同月比著増) 2ヶ月連続増。08年度2269万GT (前年比44.4%増) 2月起工量118万GT (〃29.9%) 2ヶ月振り減。 3月末手持工事量6376万GT (前月比1.8%減) 6ヶ月連続減。
3. 輸出入動向	〔輸出〕 3月の全鉄鋼輸出は、前年同月比32.7%減の262万トンと、6ヶ月連続のマイナス。 ただし、08年12月以来の250万トン超。 〔輸入〕 3月の普通鋼鋼材輸入は、前年同月比41.6%減の16.6万トンと、5ヶ月連続のマイナス、 薄板類は2ヶ月連続で50%前後の大幅減。
4. 海外市場動向	3月の世界粗鋼生産は、中国を含め主要製鉄国全てで前年割れとなり、前年同月比23.5%減の9171万トンと5ヶ月連続で2割強の減産が続いている。 中国は、政府の支援策により国内自動車販売が2ヶ月連続で過去最高を更新するなど、一部の需要産業に回復の兆しが見られ、3月の鋼材生産は1.2%増と2ヶ月連続で増加したが、鋼材市況は下落傾向が続いている。
5. トピックス	

5月19日締切で、当会役員166名に対し、このアンケートを行ったところ、96名(57.8%)から回答があり、その結果(太枠内)が下記の通りまとまりましたのでご報告いたします。
*DI算出方法=(A×2+B×1-D×1-E×2)÷回答数×100

数量、金額とも底這い状況続く

【問1】貴社の4月(先月)の総売上金は、前年同月比如何でしたか。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	売上 前年比	A	B	C	D	E	計	4月
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		10%以上増	5%以上増	ほぼ横ばい	5%以上減	10%以上減		DI
34	▲45	▲53	▲39	▲95	▲82	▲96	▲122	▲135	▲166	▲176	▲167	数量	1(1%)	0(0%)	3(3%)	7(7%)	84(89%)	95	▲182
110	59	81	95	54	72	43	▲18	▲51	▲126	▲168	▲168	金額	1(1%)	0(0%)	3(3%)	8(8%)	84(88%)	96	▲181

激減状態脱せぬまま

【問2】貴社営業窓口から見て5月(今月)の販売量は前月比如何ですか。

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	販売量 前月比	A	B	C	D	E	計	5月
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		かなり増加	やや増加	ほぼ横ばい	やや減少	かなり減少		DI
▲89	▲75	▲64	▲64	▲52	▲74	▲96	▲100	▲104	▲99	▲78	▲94	公共建設向		3	22	23	30	78	▲103
▲82	▲60	▲54	▲79	▲63	▲84	▲112	▲123	▲136	▲121	▲114	▲119	民間建設向		1	17	26	39	83	▲124
▲40	▲28	▲33	▲51	▲22	▲79	▲110	▲153	▲155	▲146	▲134	▲116	自動車向		3	8	9	21	41	▲117
▲59	▲48	▲41	▲67	▲36	▲63	▲97	▲124	▲130	▲125	▲117	▲119	その他需要家向		4	15	22	34	75	▲115
▲69	▲17	▲52	▲60	▲64	▲78	▲106	▲124	▲129	▲126	▲117	▲110	仲間取引		2	17	19	29	67	▲112
▲71	▲54	▲50	▲74	▲50	▲75	▲104	▲123	▲129	▲122	▲111	▲112	計		13	79	99	153	344	▲114

赤字悪化更新、赤字企業8割に

【問3】貴社の4月(先月)の企業収益状況は、如何ですか。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	企業 収益状況	A	B	C	D	E	計	4月
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		黒字	若干黒字	取引トントン	若干赤字	赤字		DI
143	128	133	137	106	106	83	19	▲36	▲93	▲108	▲113		1(1%)	4(4%)	14(15%)	24(25%)	53(55%)	96	▲129

夏場も不透明感強く見通し難

【問4】貴社における向う3ヶ月間の需要動向についての予測は如何ですか

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	需要動向 予測	A	B	C	D	E	計	5月
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		増加	微増	ほぼ横ばい	微減	減少		DI
▲30	▲28	▲26	▲34	▲4	▲98	▲124	▲151	▲131	▲93	▲108	▲69		1(1%)	17(18%)	37(38%)	15(16%)	26(27%)	96	▲50

荷動き低迷のまま、在庫調整あまり進まず

【問5】下記主要品種の貴地区市場の需給状況は如何ですか。

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	需要状況 見込角虫	A	B	C	D	E	計	5月
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		非常に不足	やや不足含む	ほぼ需給均衡	やや過剰含む	非常に過剰		DI
44	17	15	4	▲8	▲35	▲54	▲72	▲46	▲57	▲46	▲41	鉄筋用丸鋼		1	34	14	1	50	▲30
26	11	▲2	▲4	▲7	▲20	▲30	▲50	▲49	▲52	▲42	▲48	構造用丸鋼		1	31	14	1	47	▲32
22	15	9	▲4	▲14	▲40	▲43	▲51	▲49	▲68	▲60	▲65	平角鋼		1	27	21	2	51	▲47
93	56	32	7	▲13	▲55	▲31	▲75	▲58	▲71	▲71	▲41	H形鋼	1	2	28	22	2	55	▲40
95	94	80	58	44	0	▲31	▲57	▲62	▲62	▲73	▲84	コラム			15	23	3	41	▲71
30	21	8	▲11	▲20	▲51	▲45	▲63	▲55	▲38	▲51	▲49	小形山形鋼	1		36	20	2	59	▲37
34	16	11	▲7	▲24	▲53	▲48	▲60	▲50	▲37	▲43	▲42	中形山形鋼	1		38	18	2	59	▲34
61	48	31	12	▲4	▲40	▲48	▲59	▲60	▲45	▲56	▲62	溝形鋼		2	28	25	2	57	▲47
2	▲3	▲15	▲20	▲29	▲40	▲47	▲66	▲65	▲67	▲61	▲56	軽量形鋼C形		1	30	17	3	51	▲43
5	2	3	▲3	▲14	▲22	▲34	▲58	▲58	▲64	▲56	▲60	軽量形鋼広幅			20	11	2	33	▲45
73	46	32	2	▲2	▲43	▲47	▲83	▲88	▲110	▲119	▲100	冷延薄板			16	26	6	48	▲79
52	32	19	▲3	▲17	▲48	▲67	▲83	▲89	▲110	▲110	▲84	熱延薄板			27	28	6	61	▲66
57	34	12	▲8	▲18	▲39	▲58	▲77	▲78	▲100	▲102	▲96	表面処理鋼板			19	26	7	52	▲77
65	34	20	▲14	▲29	▲71	▲82	▲89	▲100	▲114	▲122	▲118	酸洗鋼板			17	24	12	53	▲91
48	44	17	▲4	▲10	▲52	▲63	▲86	▲83	▲105	▲95	▲84	中板		1	29	28	3	61	▲54
102	88	86	76	66	38	▲2	▲35	▲41	▲79	▲41	▲91	厚板			29	24	8	61	▲66
113	102	110	100	92	70	31	11	▲5	▲36	▲40	▲65	極厚板		1	18	9	3	31	▲45
20	25	9	7	4	▲26	▲33	▲28	▲37	▲52	▲59	▲60	縞板			32	19	1	52	▲40
13	10	9	0	▲6	▲30	▲37	▲36	▲49	▲58	▲63	▲63	中径角		1	27	22	3	53	▲51
13	12	13	0	▲4	▲21	▲25	▲38	▲32	▲63	▲59	▲65	ガス管・黒		1	27	20	3	51	▲49
15	2	4	▲6	▲5	▲20	▲25	▲41	▲36	▲62	▲61	▲64	構造用鋼管		1	22	21	2	46	▲52
47	34	24	7	▲2	▲30	▲40	▲58	▲58	▲70	▲71	▲68	計	3	13	550	432	74	1072	▲52